

唐津の気象

～対馬暖流の影響を受ける温暖な気候（1/2）～

唐津の気象の特徴は年間を通して風が強いものの、気候は割合、温暖なことである。冬には曇りの日が多く、日照時間が少ないことから日本海型気候に入りますが、対馬暖流の影響で冬でも気温はさほど下がりにません。佐賀平野は夏と冬の気温差や1日の中で朝と昼間の気温差が大きいのが特徴ですが、唐津は海の影響を受けてその気温差が比較的小さいのも特徴である。

雪の降り方にも特徴があり、西高東低の冬型気圧配置の時には唐津が朝鮮半島の風裏になるため、意外と雪は少ないのである。かえって冬型が緩んだり、「冬の東風は大雪」と言われるように日本海に低気圧が進んだ時に大雪となる傾向がある。

また唐津の気温はこの30年間で約1度上昇しており、日本の気温の平均上昇量とほぼ同じで、温暖化傾向が認められる。

唐津は、（1）対馬暖流の影響を受ける日本海型気候の地域（旧唐津、呼子、肥前、鎮西）、（2）天山（標高1,000m）、八幡岳（標高864m）山麓で山地型気候の地域（巖木、七山）、（3）これらの中間的な地域（相知、浜玉、北波多）に大きく分けられる。

日本海型気候を示す沿岸部及び島嶼では対馬暖流の影響を受け、平均気温は15～17度で、冬でもほとんど霜は降りません。年降水量は1,500～1,800ミリで、ほぼ全国平均（1,700ミリ）である。また海陸風の影響によって、日中の最高気温が低く、夜間の最低気温が高く、温暖な気候である。

東松浦半島の上場台地の畑地帯では水源となる河川が谷間にあり容易に水の利用ができずに少雨の年には干ばつ被害が発生している。今では農業水利開発事業によって灌漑施設が整備され、安定した農業が行われている。温暖な気候を利用して、ミカン、ビワスイセンなどの栽培が行われている。また肥前町には天然記念物の亜熱帯樹「アコウ」が自生し北限地帯となっている。

天山、八幡岳の山間部では、平均気温14度以下、1月の気温が4度以下、11月から4月に霜が降り、冬には雪が積もることも多く、寒さが厳しい場所である。年間雨量が2,000ミリを越す多雨地帯である。ただ夏の気温が上がりにくいいため、野菜の高冷地栽培や色が鮮やかで高評であることからカーネーション、トルコキキョウ、かすみ草などが雨よけハウスの中で栽培され、人気がある。

◎エピソード・伝承・うんちく など

近年、唐津湾ではヨットやボードセイリングなどの海のスポーツが盛んですが、ウィンドサーフィンでは浜から沖へ吹く風は、沖へ流されるので危険な風（オフショアウインド）と言われていて、唐津湾では南風が危険な風である。

鏡山では安定した上昇気流を利用したパラグライダーやハンググライダーなどの空のスポーツも盛んである。また呼子町の「風の見える丘公園」、肥前町の風力発電などがあり、風を活かした地域振興が行われている。

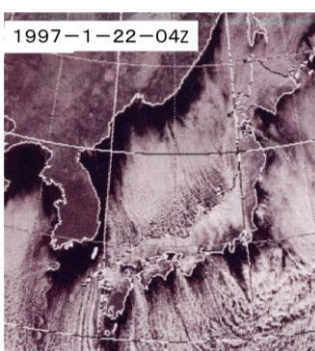
ちなみに冷涼な天山ではスキー場（佐賀市）も開かれ、近県からも多くのスキーヤーが訪れている。

分野 自然

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など

東松浦半島の果樹園の防風林
下部が空いているのは冷気が溜まる
ことがないように工夫されているため。



気象衛星ひまわり



肥前町の風力発電
(佐賀大学客員研究員 田中明氏より)

◎引用・参考文献（出典）

- ◆佐賀地方気象台HP
- ◆『佐賀県の気象と天気のことわざ』金華堂
- ◆『佐賀の気象百年史』佐賀地方気象台
- ◆『肥前町史』
- ◆『七山町史』
- ◆『相知町史』
- ◆『鎮西町史』
- ◆『巖木町史』
- ◆『呼子町史』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467